

県政をぐっと身近に！ **ぐんじとしのりの県議会報告**

2007/3/15 Vol. 10 草深 1210-5 (事務所) TEL 48-5581  
E-MAIL ID / mmirai@kitemachi.com

## 千葉県議会 / 平成 19 年第 1 回定例会報告

### ～ 千葉ニュータウン事業の将来は？

いつもお世話になっております。千葉県議会平成 19 年第 1 回定例会（2 月議会）は、3 月 9 日（金）までの会期にて行われ、閉会しました。今回は、2 / 23（金）に私が県議会の議場で千葉県当局に問うた「千葉ニュータウン事業」についての質疑を御紹介いたします。ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

#### 2 月 23 日に一般質問に立ちました。

##### 2 千葉ニュータウン事業について

昨年の県議会の決算審査特別委員会で千葉ニュータウンの計画人口がさらに 1 万人下方修正されたことが明らかになりました。このことに関連して、印西市内のニュータウン区域では、用途地域として住居地域が準工業地域に変わりました。（この結果、計画人口は 14 万 5 千人になりました。）用途地域が変わったことにより、大街区での開発が可能となり、住居以外にも研究所や物流センター、もしかするとさらにまたショッピングセンターが印西市にできるかもしれない。東京と成田を直結し、海外に向かうとき、また海外からお客様を迎えるときのメインストリートとなる千葉ニュータウンを県としてはどのような位置付けにしているのだろうか？

##### ぐんじとしのりからの質問 / 千葉ニュータウン事業に対する企業庁の取組姿勢はどうか。

（回答 / 企業庁長）1 本事業は、計画的な市街地開発と住宅地の供給を図りながら、北総地域の中核となる都市づくりを目指し、県と独立行政法人都市再生機構が共同で事業を進めてきたものであり、さらに県の業務核都市基本構想にも位置づけられている重要プロジェクトであります。

2 企業庁においては、事業着手以来、計画の策定や事業推進の根幹となる用地買収などの重要な業務を担いながら、鋭意取り組んできたところであります。

3 今後とも、東京都心や成田国際空港に近接する千葉ニュータウンのポテンシャルを活かし、国際的な活動と地域に密接した暮らしが融合する魅力ある街づくりの実現に努めてまいりたいと考えております。

##### ぐんじとしのりからの質問 / 千葉ニュータウンのこれまでの入居状況と今後の見通しはどうか。

（回答 / 企業庁長）1 千葉ニュータウンの入居状況につきましては、平成 19 年 1 月現在で、住宅戸数が約 28,000 戸、居住人口が約 8 万 1 千人となっております。

2 また、最近 3 年間の分譲状況をみますと、平成 16 年度は 730 戸、平成 17 年度では 1,880 戸の住宅用地が分譲されております。さらに、平成 18 年度では 2,900 戸の分譲が見込まれるなど、住宅需要は大きく伸びてきております。

3 このような中で、2010 年に開業予定の成田新高速鉄道や北千葉道路の整備による交通利便性向上への期待感や大型商業施設の集積などにより、このまちの魅力がさらに高まることを見込まれることから、今後とも、都市再生機構と連携を図りながら、計画的に入居の促進に努めてまいりたいと考えております。

ぐんじとしのりからの再質問 / ステップアップ 2010\* をどう考えているのか。また、住まう街から小さな世界都市へニュータウンの魅力を引き出す 20 のプロジェクト\*\* に千葉県はどう取り組んでいくのか。

（回答 / 知事） ステップアップ 2010\* の提言は、いままでの都市計画のあり方から新しい形の都市計画へ

の質的転換を図っていく必要から、以前の東京のベッドタウンとしての千葉ニュータウンではなく、国際的な視点から、千葉ニュータウン自体が独立した自主的な形として、そこに住む人々の住み心地が良いまちづくりを目指していくことが、示されたものです。

(回答/企業庁長)ステップアップ2010\*の考え方や内容は、知事が申し上げたとおりですが、この提言に示されたコンセプトを受けました事業計画の見直しを行い、住宅、業務系の研究所や会社等の必要な都市施設など、複合的機能を有したまちづくりに積極的に取り組んでいきます。

(再質問)千葉2007アクションプランに千葉ニュータウン事業はどのように位置づけられているのか。

(回答/企業庁長)2007アクションプランにおける位置づけですが、千葉ニュータウンについては「魅力ある都市の整備促進」の中に千葉ニュータウンを位置づけ、魅力的な都市としての機能を充実させてまいります。

(ぐんじとしのり より市民の皆様へ)

私が今回、議場で県の執行部の皆様に問いかけたのは、現在の千葉ニュータウンは当初、千葉県が描いた街の姿なのでしょうか？ということですが、昭和40年代に始まった千葉ニュータウン事業は40年を迎えるわけですが、「都会と田舎が融合し、職住接近の街を北総の大地につくる」といった理想は果たされているのでしょうか？計画面積は何度も変更され、縮小され、計画人口は大幅に下方修正されました。一方、国道464号線は土日には渋滞を起し、近隣の住民からひんしゆくをかつている。北総のまちづくりを千葉県はどのように考えているのか？今後が、非常に心配です。私は、千葉ニュータウンに住む居住者の一人として、引き続き皆様の声を議会に届け、代弁してまいりたいと思います。

\* 参考/ 「ステップアップ2010」とは。。

平成14年度～平成15年度にかけて、「北総地域の活性化のためにはどうするか、東京～成田間の特異な位置をどう生かすか」といったことを議論するとともに、勿論、千葉ニュータウン全体をどう活性化するかということ、牧の原駅圏の土地をどう活用するか、さらにその他のまとまった土地の活用も含め議論を深め、検討」していた研究会(ステップアップ2010研究会)です。

この「ステップアップ2010 研究会提言」では、

千葉ニュータウン事業の様々な可能性を最大限に活かした大胆な発想の転換を行い、事業の早急かつ抜本的な見直しと、事業経営の健全化に努めること。

新住宅市街地開発事業の収束に向け、コミュニティの育成とまちの成熟化を図るために、地元市村を中心にニュータウン関係者による新たな都市の運営体制等を構築する準備を進めること。

千葉ニュータウンを活性化するために、早期実現化が可能な「先行プロジェクト」を推進するとともに、成田新高速鉄道の開通を見据え、対外的インパクトのある、例えば「国際物流のコントロールタワーとなるロジスティクスセンターの整備」プロジェクトなどの「重点プロジェクト」を本格的に推進すること。

規制緩和や助成措置等の大胆なインセンティブの投入に努めるとともに、北総・公団線(当時)の利便性の向上や運賃の低減について、関係機関が一体となってその実現に取り組むこと。

等の提言がされています。

\* \* 参考/ ニュータウンの魅力を引き出す20のプロジェクトとは何か？

参考までに大きな項目だけ(7項目)列記します。

国際活動ネットワークのハブづくり

新郊外居住空間づくり(良質で特徴のある住宅・宅地の供給)

新・郊外型産業の立地誘導 / 国際的人材育成

国際ロジスティクスセンターづくり / 低負荷循環型都市システムの整備

居住者の主体的活動の伸長

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。この紙面へのご意見に限らず、皆様からのご提言、ご批判、ご相談はいつでも承ります。あるべき政治の姿を求めて皆様と手を携えていきたいと思っております。

よろしくお願いたします。

ぐんじとしのり